

## 地域交流活動を通しての学生の学びと課題(2)

植木明子・荒木正平・田川千秋

### A Learning and an Issue for Students through Communal Interaction (2)

Akiko UEKI · Shouhei ARAKI · Chiaki TAGAWA

キーワード：地域交流 地域包括ケアシステム ジェネリックスキル

#### 1. 研究の背景と目的

近年、大学や短期大学においては、その有する資源を活用し社会貢献を進めること、とりわけ地域との積極的な交流を行う事が重要視されている。また同時に、地域コミュニティの基盤となる人材の養成を推進することも要請されている。<sup>1)</sup>しかし実際には、地域における住民間のつながりは弱体化し続けている。若い世代においてその傾向が顕著である。地域で支え合うコミュニティづくりに関する研究・実践を進めることは、高等教育機関であり同時に実践力を伴った学びの場である本学の社会的責務であると認識している。また、地域コミュニティのつながりに資することを目的の一つとした本活動のような実践は、継続的に行っていくことが何より重要であると考えている。

このような状況認識のもと昨年度は、介護福祉専攻・生活総合ビジネス専攻)の共同で、「社会人基礎力のスキルアップ」とともに「地域包括ケアシステムの理解を深めること」を目的として地域貢献活動として、施設高齢者との交流を行った。<sup>2)</sup>交流活動実施後、学生のジェネリックスキルについての変化を調べたところ、「人とのコミュニケーション能力」、「チームで仕事をする力」、「地域活動・地域福祉に関する興味関心」、「社会的問題に対する興味関心」、「最後までやり抜いた達成感」の項目の値がそれぞれ上昇していた。しかしながら「リーダーシップ」の上昇値が他に比べ低く、学生からは「もっと主体的に計画立案したかつ

た」という意見も上がってきた。

そこで、今年度は「社会人基礎力のスキルアップ」と「地域包括ケアシステムの理解を深めること」の二つを引き続き主たる目的としつつも、前年度活動において浮上した課題や改善点を活かすかたちで地域交流活動を実践することとした。今年度の実施主体となる学生は、本学介護福祉士コースの2年生10名である。実施に当たっては、学生を中心にした主体的な取り組みを促し、またそのような取り組みがしやすい環境の設定を意識した。交流活動の概要の把握、活動の計画、実施、評価・反省から、次年度学生へ引き継ぎに至るまでの一連の過程を通して、学生が何を・どのように学んだかを明らかにすることを試みた。と同時に、地域コミュニティと短期大学との今後の継続的な関わりのあり方、参加される地域住民の方々に喜んでもらえるような地域交流活動の在り方を検討していくこととした。なお、今年度活動の実施に当たっては、小島・茂木地域包括支援センター及び短大近隣の自治会の協力を得た。

#### 2. 地域交流企画の概要

##### 2-1 地域の実情を知る

学生は、平成26年11月7日に小島・茂木地域包括支援センター職員による、「地域包括ケアシステムの概要と取り組みの実際について」の講義を受けた。

## 2-2 地域自治会の方々と実際に交流する

### 2-2-1 地域自治会活動の見学

本学近隣の自治会における自主グループの活動に参加・見学し、活動の概要や実際、参加者の状況などについて理解を深める。

### 2-2-2 地域交流企画の実施（計画・立案・調整・実施・評価・反省・報告）

本学の学びを活かした活動として、今年度はフラダンスの披露や手話歌などの様々なコミュニケーション方法を活用した交流活動を行い、地域高齢者の心身のリフレッシュを図る。自然な交流の中で地域住民が日々感じる思いや不安・喜び・生活上のニーズなどについてお話を伺う。

ねらいは「地域住民と触れ合うイベントの実施に向けて、企画・準備段階から学生が取り組むことで、地域における社会資源の連携・協力体制について学びを深める」とした。

なお今年度は、小島・茂木地域包括支援センターおよび短大近隣の地域にある長崎市白木町自治会の協力を得て、6月より具体的な計画を進めた。小島・茂木地域包括エリアは平成27年3月時点で人口26,087名、高齢化率33.5%（長崎市平均29.2%）、要介護認定者は2,147名、認知症高齢者は1,093名をかかえる地域である。小島・茂木包括支援センターでは地域住民の自主的なグループ

活動の支援を行っている。このエリアには8か所の地域自主グループがあり、それぞれ月に1回～2回の活動をしている。白木町自治会ではNPO法人の協力と小島・茂木地域包括支援センターの支援を受けて、月1回の活動「白木ふれあいサロン」を行っている。（以下、サロン活動と表記する）

実施経過は以下のとおりである。

#### 【実施経過】

平成27年

- |        |  |
|--------|--|
| 4月     | シラバス上に地域貢献についてのスケジュールを示す。<br>地域交流のリーダーと記録係を決める |
| 7月29日  | 白木町自治会長・支援NPO代表への挨拶と初回打ち合わせ（学生全員で）             |
| 8月26日  | 学生実施のサロン活動のポスターを作成する                           |
| 9月11日  | サロン活動参加（「タマネギ染め」体験・見学）                         |
| 10月19日 | 白木町自治会長との1回目打ち合わせ（リーダー2名）                      |
| 11月17日 | 白木町自治会長との最終打ち合わせ（リーダー2名）                       |

表1

11月27日実施計画	業務分担
10：00開始 12：00終了	○リーダー・記録
① 挨拶 5分	○フラダンス
② ラジオ体操 5分	○レクリエーション（アイスブレイキング）
③ アイスブレイキング 6分	○司会
④ クロスワードパズル 13分	○受付
⑤ 手話歌 17分	○ラジオ体操
⑥ 休憩 7分	○ポスター作製
⑦ フラダンス 30分	○プログラム作成
⑧ 茶話会・アンケート 25分	○手話うた
⑨ 閉会 5分	○茶話会
	○アンケート作成

11月27日 サロン活動実施(前頁表1 参照)

12月15日 活動全体の振り返り・学生アンケート記入

平成28年

1月19日 まとめ

1月29日 地域交流活動報告会

### 3. 研究の方法

本研究における調査対象は、本学介護福祉士コース2年生10名とした。方法は以下のとおりである。

#### 3-1. 地域交流活動の準備、交流会の実施の様子・状況を観察する。

#### 3-2. 地域交流後の学生のレポート内容を分析する。

11月27日の交流会後に、「参加者との交流を通しての気づき・学び」「自身の担当業務への取り組みを振り返っての気づき・学び」「今回の交流を通して得られた反省・課題・改善点」「今後取り組むにあたっての提案」についてのレポートを書かせた。

#### 3-3. 地域交流参加者アンケート結果を分析する。

アンケート用紙については、教員が適宜チェックは行ったものの、基本的には学生が作成した。また3-5における報告会では、学生自身による分析をもとに報告を行った。

#### 3-4. プログラム実施後にジェネリックスキルについてのアンケートを分析する。

本活動に参加することによる学生自身の変化を、下記の項目について五段階評価(自己評価)する。<sup>3)</sup>

(アンケート項目)

- 地域高活動・地域福祉に対する興味関心
- 地域活動・地域福祉に必要とされる専門的な知識や技能
- 地域活動・地域福祉に必要とされる幅広い知

識や教養

- 職業や進路選択への方向付け
- ひとつの問題を深く探究する態度
- 多様なものの見方を知って受け入れること
- 社会の現実的な問題への関心
- 一般的な常識や礼儀・マナー
- 人とのコミュニケーション能力
- チームで仕事をする力
- リーダーシップ
- 自分で考え行動する力
- 最後までやり抜く力・自分に対する自信
- 表現能力(文書表現力・体で表現すること)
- 地域のことをもっと知りたい気持ち
- 地域にもっと関わりたいという気持ち

#### 3-5. 2年生から1年生へ地域交流活動に関する報告会を開催し発表時の様子を確認し、報告会後に2年生に課したレポートの回答について、その内容を分析する。

レポートの回答項目は、「報告会についての感想や反省、学び」「地域交流活動全体を通してあなたが学んだこと、成長したと思うこと」「今後の地域活動における、あなた自身の課題」である。

## 4. 結果

### 4-1 交流会に向けての準備、交流の様子

①7月29日 白木町自治会長・支援NPO代表への挨拶と初回打ち合わせ

学生10名と教員3名にて白木公民館を訪問し、自治会長より、年間行事、参加される方がどのような活動を好まれるか、活動を支援してもらっているNPO法人や周辺の介護施設の協力を受けていること等お話を伺った。また、白木地区の歴史文化について「この地区は昔からの土地、諏訪神社の神輿守りの地域だから地域の活動は大切」と話された。「困りごとや悩み事の話をする場がなく、その機会にしたいと思っいろいろな行事をしている」「現在曜日を固定してサロン活動を行っているが、都合がつかず参加できない人もいる。夫婦で活動してもらっていると片方が亡くなっても続けて参加してもらいやすいので、一人

になってからではなく早めに参加してもらいたい。高齢者とは限らず、若い人にも参加してもらい、地域も限定していないので違う地域の人にも参加してもらいたい」とのことであった。また、次年度は長崎市のサロン活動の申請をして、月に4回の開催としていく予定とのことで、「短大にも協力してもらいたい」といったお話を聞くことができた。

学生からは、「活動にあたってどのような方が参加されるか」、「学生が考えている内容を参加者にってもらうことは出来るのか」といった質問があった。また、広報の方法など、実施に向けての具体的なことについても確認を行った他、今後、短大生として協力できることなどを活発に提案していた。

話し合いにより日程を調整し初回の交流会を9月11日とし、学生による活動実施日を11月27日とするをことを決めた。

#### ②9月11日 たまねぎ染め（初回交流会）

学生9名が地域の参加者と一緒に、玉ねぎ染めを行った。玉ねぎの茶色い皮を煮出して、木綿の布を染めた。学生と参加者は作業を通して交流ができた。この日の反省点として、学生からは、交流会終盤の茶話会で参加者と積極的に会話することが出来なかったことなどがあげられている。

#### ③11月27日 学生による地域交流企画実施日

介護福祉士コース2年生10名で計画・立案し、当日は1名欠席の9名と教員3名で参加した。地域住民14名のほか、小島・茂木地域包括支援センター職員2名、NPO代表1名の参加があった。司会進行は学生がつとめ、冒頭で自治会長からご挨拶をいただき、その後も学生がリードする形で会を進行した。ラジオ体操をおこなった後、アイスブレイキングとして実施したグーパー体操では和やかな雰囲気となった。次いで実施した、3グループに分かれて昭和40～50年代の問題を扱ったクロスワードパズル「あのころパズル」では、少しずつ緊張も解けてきたのか、各グループの学生と参加者の発言も活発となった。つづく手話歌では、「ふるさと」の歌に合わせて手話の動きで歌を歌った。学生はどの参加者にも見える位置に立

てるよう、配置を工夫し動きを見てもらった。水分補給をはさんで実施したフラダンスでは、だれでもできるようにと選曲した「花は咲く」を参加者と一緒に踊った。その後、アンケート記入・茶話会を実施し、閉会した。

## 4-2 学生のレポート内容の分析

交流会後に学生に記入してもらったレポートの内容を教員で検討しラベルワークの手法を用いて、「学生の学び」について下記のように分類した。<sup>4)</sup>

①高齢者の生活の実態や不安について直接聞くことができた。

「参加者の女性の方から家事は毎日しているよと言われ、食生活には気を付けてノートに書いて栄養士の方に見せたりして管理をしている」「一人で家にいるので体調が急に悪くなった時、誰もいないのは不安」「私たちみたいに動く高齢者はいいけど、引きこもりの人たちをどうにかしてほしい」（以上、学生の回答より抜粋）

地域のかたの不安や気がかりを聞くことができています。

②高齢者のイメージが変わった。

「皆さんお元気で、すぐ疲れてしまうという印象をもっていた高齢者のイメージはあくまで私たちが関わっていた施設入居者の方々であって、元気な高齢者はたくさんいることを学んだ」「参加していただいた方たちはとても元気な高齢者が多かった」

「元気な方が多い」という高齢者のイメージが変わったという意見があった。一方、杖歩行で視覚障害のある方もいらっしまったということに気づけている。（以上、学生の回答より抜粋）

③フラダンス・手話・アイスブレイキングなどレクリエーションの技術によって皆さんに楽しんでもらえた。

「フラダンスの衣装を着てみたかったからよかったといわれた」「フラダンスをずっと学びたかったので今日は楽しかったと言っていた」「普段しないから楽しかったと参加者からの声をいただいた。今回は体を動かすことのできる参加者の方達が多かったのでだまって座っているより動いた方が楽しいと意見があった」「普段のサロンは参加したことがなかったが、フラダンスもあると知って参加して下さったと聞いた」

「チーム名を4チームともつけたのも盛り上がった。最後に8文字で言葉を作る際に（正解は国際連合であったが）最初に出てきた言葉が「うんこくさい」でその話を手話した前に△△さんが全体にしてみんな大笑いだった」「手話は内容をもう少し難しくしてよかったのではないかと感じた」「参加者の方々はけっこう元気な方が多く、学生で何でもかんでも決めてしまわず、参加者に自由に動いていただくこともいいかなと思った」（以上、学生の回答より抜粋）

対象者のニーズに合わせたレクリエーション、対象者の反応をキャッチし、それにスポットライトを当て、他の人にさらに広げる（CSSプロセス<sup>5)</sup>）といった、プログラムの展開に気づけている。ここでは、多くの学生が参加者の良い反応をあげていた。

④関わる地域の基本的理解や歴史・文化も知る必要がある。

「町の読み方で参加者の表情が変わった」「間違った呼び名を気にされていた」「茶話会の時、参加者の方から町名の呼び方を間違っていた事を教えて頂いた。しっかり調べておく必要があったと思った」「いきなり地域の方との交流でなく、地域の歴史や色々自分達で勉強して行くことで、もっと会話の中身が違ったものになる」（以上、学生の回答より抜粋）

多くの学生が、町名について誤った呼び方をしたことへの反省をあげていた。一人の学生は地域の歴史などを学ぶことも必要と書いていた。

⑤コミュニケーションにおいて、物事を正確に伝えることはむずかしい。

「自治会の方と連絡を取り、何度も打ち合わせを行った。その話し合った内容を学生へきちんと伝えているつもりでも、誤解や誤った内容になっていたり大変だと思った」

（以上、学生の回答より抜粋）

リーダーを担当していた学生が自治会長との打ち合わせの内容を他の学生へ伝えたつもりでも、十分伝わっていなかったことへの気づきである。お互いの理解を深めるためには何が必要であるか、関わりの中からは、「大変だと思った」で終わるのではなく、もう少し具体的な課題を学生が抽出できることが望ましい。

⑥レクリエーションにおいての楽しめるための工

夫が大切であること。

「スカートやレイ・髪飾りなどを準備しておいて良かった。思っていた以上に積極的に参加して下さったので盛り上がった」「参加者から「手だけ動かして足は動かさないから覚えやすくてよかった」と言ってもらえた」「衣装を着ての写真撮影も良かった」「最初にグループを作った事で、少しずつ打ち解けていき感じができてよかったと思います」（以上、学生の回答より抜粋）

本企画実施前に、フラダンスについてはボランティアとして関わった経験や、本学の公開講座にスタッフとして参加したことによって、参加者に楽しんでもらえるレクリエーション内容や進行について考えた機会になったと考えられる。

⑦事前準備の大切さを感じた。

「今回は寒く、ペットボトルのお茶を買っていたがあたたかいお茶を飲む方が多く残ってしまった」「天気や温度のことを考えて飲み物を準備する」「本番2～3日前に、備品などの準備をバタバタと行うこととなったため、せめて1週間前には、備品の準備まで終わらせておき、交流会の流れを確認するだけの状況にできれば良かったなと思います」「リハをする時間が短かったと思うのでリハの時間を取ったほうがいいと思います」（以上、学生の回答より抜粋）

お茶や学生用のスリッパなど、天候に合わせた準備が出ていた。また、前日に行ったりハーサルや当日の事前確認によって準備の大切さを感じている。

⑧地域福祉とより積極的に交流する必要性を感じている。

「学生による広報活動（チラシ配りなど）をする。→広報活動が地域交流の場になると思う」「短大を卒業し、就職→結婚→出産というプロセスの中、地域と関わるが増えるため、地域交流の大切さや必要性を理解してもらうための取り組みであるなど、なぜ、どうしてこういうことを行うのかをきちんと理解して取り組めば、もっと皆も意義あるものになったのではないかと思います」（以上、学生の回答より抜粋）

この項目は、社会人学生からの意見である。社会人によっては、より具体的な活動内容の提案もあった。他に学生自身の卒業後のライフステージの変容過程も視野に入れて、積極的に地域交流に

取り組むことへの意義を感じている者もあった。

#### 4-3 参加者のアンケート結果から

学生がアンケートを作成した目的は①参加者の当日のレクリエーションの評価をするためであり、もう一つが②次年度の学生の活動のためである。当日は、参加16名の方たち全員からのアンケートを回収することが出来た。(資料1参照)

今回の交流活動の満足度については参加者全員から、「満足している」の回答をもらっている。

活動に参加した理由について「活動内容がよいから」や「楽しそうだったから」との回答が多かった。(表3参照) また、興味のある活動については、体操・カラオケ・街歩き・料理が多かった。(表4参照)

表3 参加した理由は何ですか

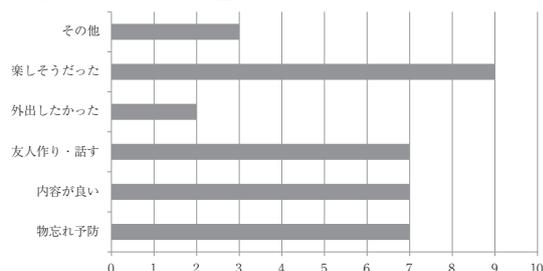
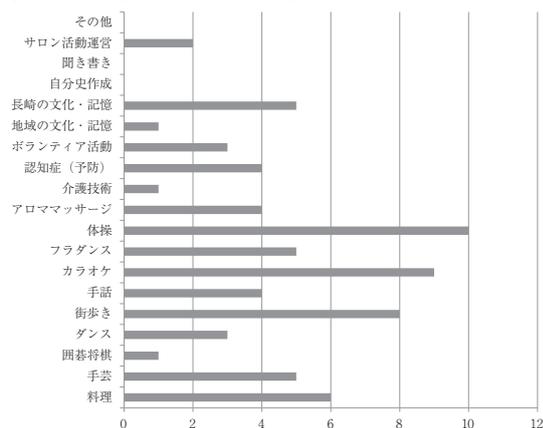


表4 あなたが興味ある事は何ですか？



#### 4-4 ジェネリックスキルアンケートの分析から

ジェネリックスキルアンケートの項目は、前年と同じ様式のものを採用し実施した。アンケート結果、ジェネリックスキルの値は「とても高まった：5」、「高まった：4」、「変わらない：3」、「低下した：2」、「ひどく低下した：1」とした。各

項目の平均値は表5のとおりである。アンケート実施対象となった10名の学生のうち、社会人経験のある学生は6名、一般の学生は4名である。全体的に今年度の数値は昨年の数値より低い傾向にある。これについては原因がいくつか考えられるが、まず、実施した活動内容が異なるということがある。昨年の交流活動は、高齢者施設での実施であったのが、今年度は地域の比較のお元気な高齢者であるなど、対象者についても異なっており、単純に比較することはできないだろう。

以下、今年度の学生に限定して結果を見ていくと、項目の中で評価項目の値が3.8と他の項目より高かったのが「地域活動に関する興味」「地域福祉に必要とされる専門的な知識や技能」「社会の現実的な問題への関心」「チームで仕事をする力」「地域のことをもっと知りたいという気持ち」であった。逆に数値が比較的低かったものとして、「職業や進路選択への方向づけ」が3.2、「リーダーシップ」が3.3、「自分に対する自信」が3.3であった。以下、学生が記載している自由記載欄

表5 自己評価結果(2F)

アンケート項目	平均値
a. 地域活動・地域福祉に対する興味関心	3.8
b. 地域活動・地域福祉に必要とされる専門的な知識や技能	3.8
c. 地域福祉に必要とされる幅広い知識や教養	3.7
d. 職業や進路選択への方向づけ	3.2
e. ひとつの問題を深く探究する態度	3.5
f. 多様なものの見方を知って受け入れること	3.5
g. 社会の現実的な問題への関心	3.8
h. 一般的な常識や礼儀・マナー	3.7
i. 人とのコミュニケーション能力	3.6
j. チームで仕事をする力	3.8
k. リーダーシップ	3.3
l. 自分で考え、行動する力	3.7
m. 最後までやり抜いた達成感	3.8
n. 自分に対する自信	3.3
o. 表現力(文書表現力/体で表現する事)	3.5
p. 地域のことをもっと知りたいという気持ち	3.8
q. 地域ともっと関わりたいという気持ち	3.7
平均	3.6

の記述内容を具体的に見ていく。そこで見えてきたのは、ジェネリックスキルアンケートへの回答という作業が有する教育的機能である。つまりそれは、地域交流活動を通して学生自身の変化の結果を書き込むという形式をとりながらも、実際にはそこで学生は、自己の活動を反省的にふりかえりつつアンケート結果を作成する。その作業自体が、学生がそれまで見えていなかった自身の変化への気付きを促し、その成長を促進する場として機能しているという可能性がみえてきたのである。

学生が記載している自由記載からも学生の学びを見ていきたい。

#### a. 地域活動・地域福祉に対する興味関心 (3.8)

「短大がある地域なので、学校でどんな事を学んでいるか知ってほしい、地域に住んでいる人の現状や心境を聞くことができた。」「地域に住んでいる人と関わりを持つ機会が持て、色々な立場からお話を聞くことができるということを知った」「世代を越えて関わりを持つことが楽しいと感じた」(以上、学生の回答より抜粋)

短大のある地域との関わりをととても興味を持って、好ましい存在として感じていることが伺える。

地域のいろいろな人々の存在を感じている。

#### b. 地域活動・地域福祉に必要とされる専門的な知識や技能 (3.8)

「自分が思っているよりも元気な方が多く、地域の方からも求められる知識や情報なども細かい物も多く、お互いに高め合える良い機会だった」「地域の方が何を必要としているか聞き出すことが難しかった」「地域の方が求める情報を交流を通し提供していくためにも様々な知識・技能の習得が大切と感じた」「認知症についてや介護技術など、今から抱えている不安に対応できる知識や技能は必要だと思う」(以上、学生の回答より抜粋)

対象者が介護が必要な状態ではなく元気な高齢者ということで、求められる知識においてもっと細かい知識や、地域の方が求める情報をもっと知っておく必要があると思っている。地域の方の話を引き出すことにも難しさを感じ課題と感じているようである。これも、今までにない経験をすることでそう感じているようである。

#### c. 地域福祉に必要とされる幅広い知識や教養 (3.7)

「地域の方に興味を持っていただける情報を提供していくことが大切と感じた」「介護だけでなく、色々な特技を生かしサロン活動にいかす知識や教養がある方が良い」「地域の方から「私達は元気なので、もっと引きこもりの老人たちを出してあげて!」と言われ、それが現実化できるように色々なアプローチや、知識が必要だと感じた。」(以上、学生の回答より抜粋)

幅広い知識や教養の必要性を関わりを通して感じたようである。閉じこもっている人たちへのアプローチを考えたものや、サロン活動に生かす知識や教養の必要性を感じている。

#### d. 職業や進路選択への方向づけ (3.2)

「その地域で生きてきた方の歴史が沢山ある事を知り、生活歴のお話を聞くことの重要性を再認識した」(以上、学生の回答より抜粋)

対象者のアセスメントを行う際に生活歴を把握するが、地域福祉でのものとのとらえ方においても忘れてはならないことを感じたようである。値の低さから進路選択にまでは影響しなかったようである。

#### e. ひとつの問題を深く探究する態度 (3.5)

「まずは白木町という地域をどんな歴史があったのかを、学んでから交流しても良かった。又は、地域の人に教えてもらう機会を作る」「何をどう取り組むべきか、皆で話し合い考えとりくんだ」「不満はたくさんあるけれど、まずは一つひとつ解決していく」(以上、学生の回答より抜粋)

それぞれの学生が体験したことについて何等か、課題としてとらえている。

#### f. 多様なものの見方を知って受け入れること (3.5)

「参加された方からも色々な意見があったように、ニーズが様々にあること」「学生同士の意見や、地域の方の意見をまとめていくこと」「内容に対して、したい方は行い、やりたくない方はやらない。自由参加で強制されるものではないことを学んだ」「高齢者の目線に立って色々な見方をし、今まで気付かなかった事に気づけるといいと思う」(以上、学生の回答より抜粋)

地域の人だけではなく学生の意見もいろいろあ

りまとめていくことを学んでいる。また、さまざまなものの見方を知って、強制せずそのまま受け入れていくことを学んでいるようである。

#### g. 社会の現実的な問題への関心 (3.8)

「地域間での交流の低下や近所付き合いの低下など、地域の中でのつながりが弱くなっていると感じた。「1人暮らしが多いことや二人暮らしでもお互い体調面が気にはなると聞いて、核家族化でいいのかと疑問に思った」「サロンで来られていた方で、困りごとについて、バスマナーの悪さについて話されていたが、そういう細かなこともよく見ておられるのだということを知った」「不安な思いを聞くことができ、「どのようにしたら・・・」など関心を持つこともあった →人暮らしの方の不安についてのこと」(以上、学生の回答より抜粋)

多くの学生が自由記載に記入していた。地域の交流や介護力の低下などの社会問題だけではなく、自分の短大のバスマナーの悪さが短大に求める要望としてあげられていたことが自己の短大での生活を考える機会になっている。

#### h. 一般的な常識や礼儀・マナー (3.7)

「目上の人に対しての礼儀や言葉遣いが出来ていなかったと感じた」「もっとマナーを高めたい」「目上の人とも関わることが多かったので、言葉づかいや対応に気を配って接することができた」「白木町の呼び方を間違えていたので礼儀がなかった」(2名)(以上、学生の回答より抜粋)

正しい名称や、言葉使いのマナーについて反省点等をあげていた。

#### i. 人とのコミュニケーション能力 (3.6)

「話すより聞き役に回っていた」「恥ずかしがらず自ら積極的に話しかけるように心掛ける」「色々な話題をきっかけに色々な話をきくことができました」「その時々によって、話す声の大きさやトーンを変えることができるようになった」「いろんな方々がいて年齢層も幅広く、ためになりました」(以上、学生の回答より抜粋)

コミュニケーションのスキルについて各自考えたようである。今後の自己の課題にも挙げている。

#### j. チームで仕事をする力 (3.8)

「みんながうごいてくれたのでスムーズだった」「(フラダンス担当)人に教えるのが初めてだったが、練習を何回も行った、他のメンバーにも協力してもらったことが

できた」「みんな意見をまとめる難しさを知った」「みんながうごいてくれたのでスムーズだった」「1人1人が役割を持つことによって、責任を持って活動することができた」「互いに報告・連絡・相談をしあっていた」「自分の持つ役割だけでなく、他の人の持つ役割にも目を向けて、協力しながら進行することができるようになった。」「それぞれの役割分担を把握し、きちんと行うことが大切」(以上、学生の回答より抜粋)

多くの学生が自由記述に記入していた。全員で、役割分担し、責任持って協力し合っていた様子が見える。

#### k. リーダーシップ (3.3)

「今回リーダーをつとめたが、みんなに助けってもらってばかりだった」「人に教えるのが初めてだったが、練習を何回も行った、他のメンバーにも協力してもらったことができた」「色々な意見をまとめる難しさを知った。率先して発言する。思ったことや感じたことをまわりに伝えまとめる」(以上、学生の回答より抜粋)

自治会との連絡を取るリーダーの役割の学生は2名、部門のリーダーもいたが、各部門でリーダーシップを発揮するとは取らなかったため、値が低かったかもしれない。

#### l. 自分で考え、行動する力 (3.7)

「喜んでいただくために何を準備したらよいかや、当日は参加者の雰囲気に合わせて内容にしたりなど考えた」「周りの方々の意見も聞きながら、自分のできる事を探し実行した」「自分の考えを持ち、それをまわりに伝え行動することの大切さ」(以上、学生の回答より抜粋)

学生は何らか自分で考え行動する力に影響を多少受けたようである。

#### m. 最後までやり抜いた達成感 (3.8)

「弥生祭、ボランティア、事例研究が重なっているなか、無事に終えて嬉しかった」「最初はどんな会になるか不安だったが、喜んでいただけ、良かった」「参加者の方が笑顔で帰っていたのでよかった」「計画から実行までの一連の流れを見ることができたので、学ぶことも多く、達成感も得られた」「皆で話し合い、時間配分もほぼ予定通り行え、良かったと思う」(以上、学生の回答より抜粋)

ほとんどの学生が達成感があったと答えている。

#### n. 自分に対する自信 (3.3)

「教えるという立場だったが、教えるということを知り、

自分にとって良い経験になった」「計画も実施も、楽しみを持ってできるくらい、心に余裕ができてきた気がする」(以上、学生の回答より抜粋)

参加者に教える体験が自信につながっているように感じられる。その他の項目に比べると今回の交流によっての変化は少ないこの交流によって「高まった：4」につけたのは10名中3名であった。

#### **o, 表現力(文書表現力／体で表現する事) (3.5)**

「会の内容に様々な事を取り入れる事で、五感を使って楽しんでいただけたと思った」「その場の状況で話す言葉を変えるのが難しかった」「ラジオ体操は元気に声を張って頑張りました」(以上、学生の回答より抜粋)

いろいろな表現力があり、イメージが難しかったのか自由記載があったのは3名のみであった。

#### **p, 地域のことをもっと知りたいという気持ち (3.8)**

「地域のことを知ることで、その土地に住む方を知るきっかけになる」「知らなかったことが知れてよかった」

「地域間での繋がりや、支え合いの重要性は、授業の中で学んでいたもので、これからも理解を深めていきたいと思った」「地域の声を直接聞ける場所だと感じた」「地域により特色があり、抱えている問題もさまざまであることがわかりました」「地域のことを知り、自分にできることがあれば積極的に取り組みたい」(以上、学生の回答より抜粋)

積極的に自由記載があった。地域に出かけることで、より知りたいという気持ちになったようである。

#### **q, 地域ともっと関わりたいという気持ち (3.7)**

「身近にいる地域の方達なので、直接声を聞きたいし、自分たちの学びにもつながると思った」「他の地域の人とも交流してみたい」「来年からまた環境が変わるので、今度は地元で、地域貢献ができればと思う」「地域の方と直に関わることで、親近感がわき、地域貢献の大切さを感じた」「今まで通り、関わっていきます」「地域の方と関わりを大事にし、住みやすい町を作っていけるよう他者と意見交換をしたらよいと思う」(以上、学生の回答より抜粋)

地域のことを知るだけでなくもっと関わりたいと思う気持ちが出ているようである。

#### **4-5 地域交流活動報告会実施について**

1月29日2年生から1年生に対して介護総合演習の授業の1コマを使い地域交流活動報告会を行った。

目的・計画の概要について説明し、地域住民と触れ合うイベントの実施に向けて、企画・準備段階から学生が取り組むことで、地域における社会資源の連携・協力体制について学びを深めるねらいがある。

2年生は1年生に対して発表用の資料を作成し、地域包括ケアシステムの概要の説明、スケジュール、11月27日の地域交流活動のプログラム、各役割分担を行った部門ごとの報告、質疑応答の流れで報告会を行った。(表6参照)

60分程度を使って2年生から1年生へ発表会を行った。報告会では学生が各部門毎に資料を準備した。資料内容については仕事内容、手順、反省、アドバイス等の項目に沿って記入されていた。(資料1～6参照)10人の学生全員がリーダー・記録、ポスター製作・プログラム作成、司会・受付、ラジオ体操、レクリエーション、フラダンス、手話うた、茶話会、アンケート作成について発表を行った。説明においては当日の映像を利用し、わかりやすく説明するものもいた。

1年生よりは、プログラムの進め方についての質問があった。2年生より最後に一人ひとり困ったことなどの発表が行われた。報告会終了後にはそれぞれレポートを書いてもらった。1年生には「報告を聞いての来年実施に向けてどのような準備が必要か」、「報告を参考に来年度実施してみたい活動のアイデア」、「報告を聞いての学び」をあげてもらった。2年生には「報告会を終えての感想や反省学び」、「活動全体を通しての学んだこと、成長したこと」、「今後の地域活動における課題」をあげてもらった。

表 6

地域交流活動に関する報告会プログラム
(1) 企画実施の目的
(2) 計画の概要
(3) 実施の全体像について 事前学習から報告会までの活動プログラム
(4) 11月27日サロン活動プログラム
(5) 各部門ごとの報告 リーダー・記録、ポスター製作・プログラム作成、司会・受付、ラジオ体操、レクリエーション、フラダンス、手話うた、茶話会、アンケート作成
(6) 質疑応答
(7) 教員講評

#### 4-6 報告会後の2年生のレポートの分析

ここでは、2年生のレポート内容を大まかに分類して学生が何を学んだか見ていきたい。(学生の個別の記載内容は表7～9

①表現力及び伝達能力の重要性。

おおむね半数の学生は自分の発表に満足し、満足していない学生もどうすればよかったかを記載している。

「事前の打ち合わせが不十分だったので手順がよく理解できないまま進行了。DVDを流しながら思いましたが、映像をチェックしていなかったのでやめました。DVDがあったほうがよかったと思いました」

②事前準備・打ち合わせの大切さ。

「交流会の準備や当日は内容を理解したりすることが遅くなってしまったので、準備から地域の方でどんな方が参加するか計画を細かく考える必要があったので計画的に行うことを学びました」(同じようなもの4)

事前打ち合わせをし、計画し実施していくことやしっかり準備をすることの大切さを学んでいる。

③直接住民の思いを知る事を学んでいる。

「地域の方がどんなことを望んでいるのか、地域の方が今必要としていることなどをきちんと考えたり、知ったりすることでもっと活動に生かすことが出来るのではないかと思います。地域のことを知るということをまずは目標に地域とつながっていかれたらと思う」

「住み慣れた地域でこれからも過ごしていただけるよう高齢者の方とコミュニケーションをとる機会を作り、意思や思いを聴くことの大切さを学ぶことが出来た」

地域住民の声を聞き、住民が何を必要としているかを知り、さらにそれを活動にいかしていくことを学んでいる。

④「地域福祉」の担い手として、当事者意識を感じている。

表 7 2年生の発表会を終えての感想

報告会について感想や反省学びなど
読んだだけになってうまく伝えることが出来なかった。
事前の打ち合わせが不十分だったので手順がよく理解できないまま進行了。DVDを流しながら思いましたが、映像をチェックしていなかったのでやめました。DVDがあったほうがよかったと思いました。
写真やDVDを使用することでその時の状況を分かりやすく説明することが出来たと思う。
1年生に分かりやすく伝えることが、できたか少し不安です。司会受付はほとんど準備期間に手伝うことが出来なかったのだから準備の時に積極的に参加できなかったと思いました。
次の1年生に伝えることで、これからも地域との関わり絶やさないことの大切さを感じた。うまく話すのは苦手なだけ読んだだけになっていた。
報告書を各自1枚ずつ作成しましたが、私だけ手書きの資料だったので他のみんなと書式を合わせて、パソコンで作成したほうがよかったのかなと思いました。発表はうまく伝えることが出来たと思います。
皆まとまっていて、わかりやすかった。動画を活用することで、より伝わりやすかった
地域交流活動を行う目的、この1年の流れ、各部門ごとの具体的内容や次年度へのアドバイスなどを細かく伝えることが出来たと思う。
「参加者」という言葉がでてこなかった。ポスター製作とアンケートの説明を一緒に行ったため、事前に考えていたことをうまく伝えることが出来なかった
報告書を作成し、わかりやすく説明することが出来たと思います。

表 8

<b>活動全体を通してあなたが学んだこと成長したと思うこと</b>
打ち合わせできちんと聞いていなかった部分があり少し戸惑う部分があった。打ち合わせの内容をもっときちんと決めて打ち合わせに行くことが大切だと思いました。
事前準備の重要性を改めて学ぶことができました。地域の方と直接交流でき、意見を聞くことが出来たのがよかった。地域活動への関心が高まった。地域の方と交流し、日々の生活話を聞くことで、生活の悩みや困っていることを聞くことが出来た。学生で計画をし、実行することで反省点や改善点を見つけることが出来た。
交流会の準備や当日は内容が理解したりすることが遅くなってしまったので準備から地域の方でどんな方が参加するか計画を細かく考える必要があったので計画的に行うことを学びました。
自治会の方が、普段どのようなことを不満に思っているのか地域で困っていること、要望などを知ることが出来ました。また、リーダーの仕事としてみんなの意見をまとめる事や、自治会の方や学生に情報の提供をすることの難しさを感じました。
普段あまりかわることの少ない、年齢層の方が対象だったので、会話の内容として学校で行っている活動や長崎の街のことについてが主でした。もっとたくさん地域の方と交流したいと思います。
活動を通し、自然な交流の中で参加者の方が日々感じている思いや地域住民間の関係性などについて知ることが出来た。
地域の方のニーズを聞き、地域の方が求めるものに合う活動を考え実施することが大切と感じた。また次年度にさらによいものにしていけるよう、アンケートをとりさらに深いニーズを聞くことが大切。
事前準備の重要性を改めて学ぶことができました。地域の方と直接交流でき、意見を聞くことが出来たのがよかった。必要性大切さ
地域交流の活動を通して、住み慣れた地域でこれからも過ごしていただけるよう高齢者の方とコミュニケーションをとる機会を作り、意思や思いを聴くことの大切さを学ぶことが出来た。

表 9

<b>今後の地域活動におけるあなた自身の課題</b>
前はリーダーだったので少しは内容を把握できていたが、できていないところもあったため、いろいろな内容をきちんと把握して行うことが必要だと思った。
活動に参加していただいた方たちは毎回同じ方になりがちのようでした。どのような活動を行えば新しい参加者の方が来てもらえるのか、アンケートなどから調べ取り組む必要があると思いました。
まずは、地域の方と交流する事。何かをする事だけでなく、あいさつや簡単な日常会話でもよいので。顔を見て話すということ。そして自分が住み慣れた地域での変化に気づけること。(道路が変わった、道が危ないなど)
サロンに参加することが出来なかったため、どんな方が参加するかわからないまま当日おこなったので、自分が計画を立てる際に高齢の方だけではなくと思うのでさまざまな年齢層の方と関わるかことが出来る活動ができるような知識を身につけることが大切と思いました。
どんなことを望んでいるのか、地域の方が今必要としていることなどをきちんと考えたり、知ったりすることでもっと活動に生かすことが出来るのではないかと思います。地域のことを知るということをまずは目標に地域とつながっていかれたらと思う。
私は今後、地元の老人福祉施設に就職するため、地元で生活します。地元では地区の行事が多いので積極的に参加し近隣の人とのつながりを大切に生活しなければと思います。
勤務形態が不規則なため、地域活動の開催日と休日が合わないことが予想されるため、参加できないかもしれないが、参加できる日は積極的に取り組みたい。
今回は準備段階までしか、参加が出来なかったため、クラスみんなが実施してくれた内容を学びに、これから社会に出て地域活動を行う際活用していきたい。
今後も地域に根ざした自治会活動に参加していこうと思います。
地域で住み慣れている高齢者の方々が住みやすく安心、安全に暮らしていけるよう地域の方と日頃から交流する機会を作れる環境をつくり」つながりを大切にしていけることを大事にしたい。

「今後も地域に根ざした自治会活動に参加していこうと思います」「私は今後、地元の老人福祉施設に就職するため、地元で生活します。地元では地区の行事が多いので積極的に参加し近隣の人とのつながりを大切に生活しなければと思います」

地域に対する、当事者意識や役割・課題を各自が持つことが出来ている。

## 5. 考 察

本稿の冒頭に記した通り本活動・研究は、昨年度から開始となり、今後も継続的に行っていく予定である地域交流活動・研究の一環として実施している。今年度の実施・研究は、前年度の結果を受けて課題として浮上してきたポイントのうち、「①学生の学習方法を改善・再検討する（学生の参加に重点を置き、学生が主体的に学べるアクティブラーニングを意識した取り組み）」、「②交流の「場」を介護予防に取り組む地域とする」、「③年度初めの計画として学生に周知し、計画的に実施させるために、シラバスに反映させる」といった点を特に重点課題として取り組むこととした。

そこで今年度は、まず学びの「場」として、本学近隣に位置する白木町に協力していただき、介護予防自主グループの地域住民と触れ合うイベントの開催に向けて、学生が企画・準備段階から取り組むことで、地域における社会資源の連携・協力体制についての学びを深めることを目標とした。イベントの開催に向けたあらゆる準備を学生主体で進めていけるよう指導を行い、準備段階の打ち合わせや、事前の交流、イベントや打ち合わせ等の日時の調整や決定も学生が主体的に取り組めるよう教員が適宜支援を行いながら、学生と一緒に決めていった。最初は慣れない作業の連続で戸惑いも多かった学生たちであるが、地域住民のお話を直接聞く機会を重ねていくことで、徐々に自分たちで主体的に課題解決に向けて計画的に取り組むことが出来るようになってきた。さらに、地域交流活動実施に向けて、参加学生全員で役割を分担して取り組むことを通して、一人ひとりが考えて行動する機会になったのではないかと考えられる。また、次年度実施の準備を間近に控える1年生に

向けての報告会を実施することにより、多くの学生が自分の体験を他者にわかりやすい言葉で伝えるために、資料作成や映像の使用など表現をさまざまに工夫して取り組んだことは、自身の経験を振り返る絶好の機会となったと考えられる。

地域交流に伴う地域の方との複数回の交流体験や、1年生に自分たちの経験を伝えるという報告会の準備・実施に関する体験などのそれぞれについて、感想を書いてもらい、その都度、学びの共有をおこなった。

福祉教育のこれからとして原田はポートフォリオ評価を使っていくことをすすめている。「総合的な学習の評価としてポートフォリオという評価方法が取り入れられているが、子ども自身の学びを絶対評価していくために、学習のプロセスと自己形成評価を重視していく方法であるといわれている。具体的な学習の過程をふりかえることで①自分自身の変化（成長）に気づくこと、②この学習でどんな力が身についたか明確にすること、③これからどんな学習や活動に伝えていきたいかを考えること、この3点を中心に教師が学習支援をしながら、学習者自身あるいはグループでリフレクションをしていく方法である。」<sup>6)</sup>今年度は学生の学びとリフレクションを積み重ねていくことで学生の学びを明らかにしていった。実施当初ポートフォリオを意識した取り組みではなく、ポートフォリオにある評価基準は設けてはいなかったが、ジェネリックスキルアンケートは学生にとっては評価の視点になったと思われる。

次年度の課題としては、ポートフォリオを意識したプログラムとするために評価基準をどうするか、さらに教科の連携や時期も含めてカリキュラムを検討する必要がある。

今回の地域交流において、学生が学んだことは次の5つのことであると考えられる。それは、①表現力・伝達能力の向上が必要であること、②事前準備・打ち合わせの大切さ、③地域住民の声を聞き思いを知る、④「地域福祉」の担い手としての当事者意識を持つ、であった。

今年度の調査結果からは、地域包括ケアシステ

ムの理解に関する部分、特に「地域で支え合っていく」という点で、社会資源がどのようにかかわっているかについての気づきあまり挙がっていなかったように思われる。これは一つには、地域包括ケアシステムに対する説明の時期と実施の時期が離れていたことも影響したかもしれない。また、今年度の活動については、実施時期の設定が難航したこともあり、学生の感想を全体で共有する時間を確保することが難しく、学生からも「いろいろなことが重なって忙しかった」といった声があった。

また、今回の活動実施後の学生アンケートの自由記述のなかで興味深かったのが、「参加者が座る椅子を準備する」ことについての捉え方に学生ごとのずれがあったことである。学生の中には、椅子の準備を、対象者に対して当然必要な配慮「おもてなし」ととらえ、「学生が主導で準備するべきだ」と考えた者と、逆に、「準備を手伝ってもらえる人にはお願いするべきであり、それこそが「自立支援」だ」と考える者があり、それぞれに感じ方の違いが読み取れた。地域住民の福祉をどうとらえるか、地域交流活動をどのような場として位置付けるかによって、学生と参加者との関係性も変わるものであり、どちらが正しいということではないのかもしれない。これは、地域住民のエンパワメントといった視点からの支援の在り方にも関わってくる重要な問題であり、今後、単元の通常授業とも関連させ学生の学びを深めていきたい。

## 謝辞

本研究をまとめるに当たり、ご協力いただいた白木町自治会長小柳様をはじめ、自治会の皆様、長崎市小島・茂木地域包括支援センターの皆様に感謝いたします。

## 注・引用文献

- 1) 中教審短大ワーキンググループ（平成26年8月6日）短期大学の今後の在り方について
- 2) 植木明子・濱口なぎさ・荒木正平・田川千秋：地域交流活動を通しての学生の学びと課題 長崎女子短期大学紀要第39号 2014年

- 3) 武藤玲路：自己点検・評価における在学調査の活用事例 短期大学コンソーシアム九州紀要2013年を参考に昨年の先行研究にて作成したアンケートである。
- 4) 林義樹監修「看護の知を紡ぐ ラベルワーク技法」を参考にした。
- 5) レクリエーションインストラクターにおける支援スキルの一つである。
- 6) 原田正樹：福祉教育実践の新潮流—共生文化の創造を目指して 月刊福祉 4月号96巻第5号 p12-17 中央法規2013年

## 参考文献

- ・合津千香：介護福祉学生が「地域」について学ぶ意義と課題 松本短期大学紀要2013年
- ・木村佐枝子：大学と社会貢献 学生ボランティア活動の教育的意義 P39 創元社2014年
- ・スーザンA. アンプローズ他：大学における学びの場づくり 玉川大学出版部 2014年
- ・北村 光子：福祉文化と介護福祉教育—佐世保市の地域文化に学ぶ 長崎短期大学紀要第2013年
- ・中尾健一郎：地域交流行事の効果について 長崎短期大学研究紀要 2013年
- ・新井幸恵・久保田トミ子・森山千賀子・渡辺道代：養成教育における家族支援・地域支援教育の課題 介護福祉教育 p110~124 中央法規 No39 2015年
- ・日本レクリエーション協会：レクリエーション支援の基礎 日本レクリエーション協会 2007年
- ・林義樹監修：看護の知を紡ぐ ラベルワーク技法 精神看護出版 2004年
- ・土持ゲーリー法一：ラーニング・ポートフォリオ——学習改善の秘訣 東信堂 2009年



資料1 アンケート用紙

10. 好きなサロン活動やあったらいいと思う活動内容について、自由に記入してください。  
(例：体操・〇〇講座・茶話会等)

11. 今回のサロン活動に参加しての感想について○をつけてください。
- イ) 満足している
  - ロ) まあまあ満足している
  - ハ) あまり満足していない
  - ニ) 満足していない

※改善点や要望など、今回のサロン活動についてご意見をお聞かせください。

IV その他

12. あなたが興味のあることに○をつけてください。【複数選択可】

料理・手芸・囲碁将棋・ダンス・街歩き・手話・カラオケ・フラダンス・体操・  
アロママッサージ・介護技術・認知症(予防)・ボランティア活動・地域の文化や記憶・  
長崎の文化や記憶・自分史作成・聞き書き・サロン活動の運営  
その他( )

13. 現在、生活していて困っていることがあれば教えてください。

14. 長崎女子短期大学への要望があればお聞かせください。

お疲れ様でした。ご協力ありがとうございました。

資料 2

リーダー・記録について

〈リーダー・記録の主な仕事〉

- ・毎回の話し合いの進行、意見のまとめ、記録
- ・自治会の方と打ち合わせ
- ・当日の始めと終わりの言葉

〈具体的な内容〉

★話し合い

- ・交流会の実施内容の確認
- ・打ち合わせの内容の確認
- ・参加者への配慮の工夫
- ・リハーサルの日時の決定

★打ち合わせ

○1回目・・・10月19日

- ・自治会長さんに連絡をし、打ち合わせ日時の調整
- ・挨拶、顔合わせも兼ねた打ち合わせ
- ・打ち合わせで、内容を説明し自治会長さんの意見を伺う
- ・クラスで決めた質問内容を自治会長さんに質問し回答を得る

○2回目・・・11月17日

- ・自治会長さんに連絡をし、打ち合わせ日時の調整
- ・変えた内容を説明し自治会長さんの意見を伺う
- ・クラスで決めた質問内容を自治会長さんに質問し回答を得る
- ・学生や参加者の位置や机や椅子などの配置を確認
- ・活動で使用する物品を自治会の方からお借りできるかを確認

★始まりと終わりの言葉

- ・2人で分担し、内容を考え行った

〈反省点〉

- ・初めてだったこともあり、打ち合わせで何を聞いていいかなどがわからず、細かいところまで聞くことができなかった。聞きたいことを細かいところまで決めて打ち合わせに行ったほうがいいと思う。
- ・自治会の方と打合せのための連絡を取る際、公民会の空いている時間の都合などもあり何度も連絡を取らなければならなかった。自治会の方にも負担があったと思うので、事前にもっと多めに打合せの希望を考える必要があった。
- ・また学生と自治会の方が考えていることにズレもあったのでしっかり伝えることの大切さを感じた。

### 資料3

#### ポスター作製について

##### 〈作製手順〉

1. 日程・プログラム内容決定後、夏休み期間中にポスター（案）作製し、自治会長へ渡した。
2. 自治会長と連絡を取り、内容・レイアウトを確認
3. 文字を大きく、見やすく、わかりやすいような内容で、また、興味を持っていただけるようなレイアウトを心がけた。

##### 〈ポスター作製後〉

1. 自治会長に必要枚数を確認し、打ち合わせ時に手渡した。
2. 回覧板と一緒に配布。連合自治会で紹介してもらい、白木区以外の方々にも配布してもらった。

##### 〈自己評価・アドバイス〉

参加者のアンケートにもありましたが、ポスターを見て参加してくださった方や、興味を持ってくださった方がいたことから、ポスター作製時に気をつけた、文字の大きさや見やすさ、わかりやすい内容・興味を持っていただける内容にすることが大切であったと思います。

#### プログラム作成について

##### 〈作製手順・工夫点〉

- ・模造紙 半分のサイズを縦にし、横書きで作製
- ・文字は10cm×10cm くらいのサイズで記入
- ・『休憩』 プログラムに書かず、司会者の方に口頭で言う
- ・時間を記入しないことで、参加者の方にゆっくり楽しんでいただけるように配慮を行った

##### 〈自己評価・アドバイス〉

- ・ポスターを貼る掲示板は、縦横どちらでも対応が可能
- ・交流会の内容と流れを参加者の方に伝えるものとなるので、文字のサイズは大きめにし、シンプルに作製することで見やすく、わかりやすくなると思います

### 資料4



資料5

～フラダンス～

○事前準備

- (参加者の方に対して) …参加者の方の ADL の確認、服装や運動をすることを事前にポスターで伝える
- (学生) …曲の選択、内容、時間、構成 (学生の立ち位置など)、模擬練習

○準備物

- パウスカート (白、赤)、Tシャツ、レイ、CD、CD ラジカセ

○曲目: 「花は咲く」 ○時間: 30分

○当日の状況

- ①学生だけで前で踊る (どのようなフラダンスを踊るのか見ていただくため)
- ②参加者の方にスカートやレイを着けていただき、「花は咲く」のサビの部分を教える (振り付けの意味を教えながら、ゆっくりと何度も教える) ③全員で「花は咲く」を踊る
- ④学生からクリスマスプレゼントとして「ママがサンタにキスをした」を踊る ⑤挨拶 ⑥集合写真撮影



○参加者の方の感想

- ・今日は楽しかったです。いつものサロンでは見られないキャピキャピ感を参加者にも感じました。たまには来ていただき、若い空気、風を吹き込んでください。ありがとうございました

○学生の振り返り

- ・積極的に参加してくださる方が多く元気な方が多かった
- ・フラダンスの衣装なども着てみたかったから良かったと言われていた
- ・普段のサロンは参加したことなかったが、フラダンスもあると知って参加して下さっていた。「毎日の参加は無理がけど1年に1回くらいなら参加したい。来年もフラダンスを是非してほしい」と言ってくださりとても喜んでいました
- ・スカートを着たり、レイを付けてフラダンスをした事で楽しんでいただけた
- ・「フラダンスをずっと学びたかったので今回は楽しかった」と言っていただけた
- ・参加者から「手だけ動かして足は動かさないから覚えやすくてよかった」と言ってもらった
- ・衣装を着ての写真撮影も良かった



資料6

アンケートについて

\*アンケート作成手順について

1. どういった情報収集が必要か話し合い、アンケートの草案を作成。
2. 内容を見直し、今後に繋げるための情報収集も必要であるということで、アンケート内容を皆で決めていき作成。

\*当日持って行ったもの

アンケート一式 ・ 鉛筆

\*アンケート結果について

アンケート用紙Ⅲ-9（別紙参照）活動に参加した理由について。

ロ) 活動内容が良いから や ホ) 楽しそうだったから に、多くの方が○をつけていることから、開催内容の大切さを実感した。このことから、次回、開催内容については、興味を引く内容を考え実施する必要性があると考え。

アンケート用紙Ⅳ-12（別紙参照）あなたが興味のあることについて。

今回の情報を参考に、次回の開催内容に繋げていただけたら良いのではないかと考える。

これからずっと続けていく活動となることから、今後に繋げていく情報収集を行い、地域の方々の様子を把握し、楽しんで参加してもらえるサロン活動のお手伝いができるような、アンケートを作成することが大切ではないかと思っています。